

きれいな空気よ水を求めて

かんきょう 会報

Vol. 41



レッサーパンダ「ななこ」
(静岡市立日本平動物園 令和7年7月7日誕生 撮影生後4か月頃)



日本平動物園
エントランス

令和7年度 通常総会

通常総会 …1
講演会「企業ならではのネイチャーポジティブ取り組みの可能性を秘めた静岡一」 …2

三保真崎海岸清掃活動 …3

環境講座

「偏光万華鏡作りと静岡市環境保健研究所の見学」 …4

県内優良施設見学研修会

①静岡市 西ヶ谷清掃工場 ②静岡市 沼上最終処分場 …5

環境セミナー

「静岡市における生物多様性保全の取り組み」 …7

令和7年度環境保全功労者等表彰 受賞 令和7年度 公害防止管理者等リフレッシュ研修会

かんきょうにゆうす
清水区三保クロマツ植樹地 下草刈り・松葉かき …9

令和7年度
通常総会

静 岡 市 環 境 保 全 推 進 協 力 会

令和7年度 通常総会 開催

[開催日] 5月23日(金)

[会場] 静岡市役所清水庁舎 ふれあいホール

令和7年度の通常総会は、海野会長の挨拶から始まり、来賓の静岡市議会議員長・山根田鶴子氏、静岡市環境局次長・佐藤暢久氏からご祝辞を賜りました。

5つの提出議案は原案どおり承認、可決されました。

第1号議案 令和6年度事業報告

第2号議案 令和6年度収入・支出決算

第3号議案 書記の勤務条件に関する規程の一部改正について

第4号議案 令和7年度事業計画(案)

第5号議案 令和7年度収入・支出予算(案)



海野 晃 会長



静岡市環境局次長 佐藤暢久氏



市議会議員長 山根田鶴子氏

講演会

〔演題〕企業ならではのネイチャーポジティブ
—— 取り組みの可能性を秘めた静岡 ——

〔講師〕常葉大学大学院 環境防災研究科 教授 浅見佳世氏

講師の浅見氏は植物生態学・保全生態学を専門とし、静岡市の環境審議会の委員も務めておられます。本講演では、清水港の干潟やその周辺の自然環境を題材に、自然再生の可能性と企業・地域が果たす役割について語られました。

1. 清水港の干潟

清水港の埋立地で絶滅危惧種「トビハゼ」の生息が確認された。トビハゼは海辺に生息する魚にもかかわらず水を嫌い、満潮時にはヨシ群落などへ避難する。また干潟に生える「ハマボウ」も全国的に生息・生育地が減少しており、両種はいずれも干潟とヨシ原が連続する多様な自然環境が保たれている場所を好んで生息している。

かつて清水港一帯には干潟が広がっていたが、戦後の埋め立てによりその多くが消失した。しかし現在も一部にはその名残があり、生物多様性の再生の可能性を秘めている。干潟・ヨシ群落・ハマボウ群落の連続性を再生することで、生態系サービスや景観、環境教育など多面的な価値の創出が期待できる。

2. “30by30”に向けての取り組み

2022年、陸域と海域の30%を2030年までに保全する「30 by 30」が定められた。その達成には、法的に守られた保護地域に加え、OECM(保護地域以外で生物多様性

保全に資する地域)の活用が重要とされる。企業が管理する緑地や河川敷、遊水地なども対象となり得る。日本国内では「自然共生サイト」としての登録認定が進んでおり、地域や企業の取り組みが可視化・評価される体制が整いつつある。

3. 静岡市内で取り組める活動

静岡市内では、自然再生のポテンシャルを持つ場所が数多く存在する。有度丘陵は、かつての里山に多かった明るい林の要素を保有しており、里山の維持により四季の変化に富んだ生物多様性の高い環境を維持・回復することができる。麻機遊水地では外来種の駆除が行われており、トンボなど希少種の生息が確認されている。企業の緑地や民家裏の傾斜地なども、手入れ次第で貴重な自然空間となりうる。これらの地域を企業や市民が協力して管理・再生することにより、生き物にやさしい空間を生み出すことができる。こうした管理を行えば、防災・教育・文化継承といった副次的効果も期待できる。

4. 支援制度

2025年の生物多様性増進活動促進法の施行によって、場所に対する認定から、活動の認定となった。例えば、外来種駆除への人員・資金支援も対象となる。

活動への支援制度として、環境省の「有識者マッチング制度(地域生物多様性増進活動計画の認定を目指す相談者に専門家を紹介してくれる制度)」や、静岡県の「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ制度(静岡県が企業等と環境保全団体をマッチング)」などがある。

本講演では、科学的根拠と地域愛に満ちた内容から、自然と人との持続可能な関係のあり方が明確に語られていました。トビハゼという小さな魚の生態から見える大きな自然の価値、里山の再評価、企業の社会的責任と可能性など、多くの気づきがありました。自然を守ることは専門家だけでなく、企業や市民、行政が連携して取り組むべき共通の課題であると強く感じました。

三菱電機㈱ 片瀬憲一





三保真崎海岸 清掃活動

令和7年6月7日(土)



守ろう、美しい海と未来

静岡市環境保全推進協会では、6月の「環境月間」に合わせて、積極的な環境保全活動の一環として、海岸清掃活動を毎年実施しています。今回は令和7年6月7日(土)、三保真崎海岸を会場に、43社の事業所から512人が参加し、地域の美しい自然環境を守るために力を合わせました。

当日は、雲が広がり風もなく蒸し暑い気候でしたが、参加者の皆様は暑さに負けず、意欲的に活動に取り組んでいました。私自身も運営委員として参加し、清掃活動中は皆様が集めたごみの分別をお手伝いしながら、協会としての円滑な運営に努めました。

今回の活動では、21袋90kgのごみを回収することができました。回収されたごみの中では、ペットボトルやプラスチック容器などのプラスチックごみが多く見受けられました。海岸に漂着するプラスチックごみは、景観を損なうだけでなく、海洋生物への深刻な被害をもたらすことが問題視されています。改めて、プラスチックごみの削減や適切な分別・処理の重要性を強く感じました。

このような清掃活動は、環境問題に対する意識を高める貴重な機会でもあります。当協会では、今後も事業所・行政が一体となった環境保全の取り組みを進め、美しい自然を次世代に引き継いでいけるよう活動を続けてまいります。参加いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

(株)巴川コーポレーション 鈴木直志



偏光万華鏡作りと 静岡市環境保健研究所の見学

令和7年8月6日(水)



令和7年8月6日、静岡市環境保健研究所において、夏休みの特別企画として「偏光万華鏡作りと静岡市環境保健研究所の見学」イベントを開催しました。

当日は、事前にお申し込みいただいた小学生とその保護者、合わせて13名の皆様にご参加いただきました。

イベントは、今年4月に新築・移転したばかりの最新施設で行いました。まず、研究所でどのような業務が行われているのか、環境や保健に関する調査や分析の重要性、そしてそこで働く研究員の役割や人数について、研究所職員からわかりやすくご紹介いただきました。この研究所は、市民の健康と安全を守るため、大気や水質の検査や分析などを日々行っており、その重要な役割を知っていただく機会ともなりました。

続いて、普段は公開されていない研究所内を見学しました。水質や大気の安全性を確保するために使用されている最新鋭の検査機器や分析装置を間近で見学し、参加者の皆様はその精密さと設備の充実ぶりに驚き、子どもたちは興味津々で説明を聞いていました。

施設見学の後は、参加ご家族で偏光万華鏡を製作しました。講師からの解説を交えながら、光の性質や偏光の仕組みを学び、身近な紙コップやセロハンテープ、偏光板、シールを使って、世界に一つだけのオリジナル万華鏡を作りました。完成した万華鏡をのぞくと、光の加減によって次々と変化する不思議な模様が広がり、子どもたちは「きれい!」「こんなに見え方が変わるんだ!」と歓声をあげていました。

参加者の皆様からは「普段できない体験ができて楽しかった。」「またこういったイベントに参加したい。」「今回は小学生対象だったが、中学生対象でも良いと感じた。将来のことを考える時期にはとても良いイベントだと思う。」という感想が寄せられました。

今回のイベントは、科学の楽しさや環境保全の大切さを楽しく学ぶ機会となりました。今後も、このような体験型のイベントを継続的に実施し、会員事業所の皆様とともに環境保全に関する理解を深めていきたいと考えています。子どもたちの好奇心を育みながら、未来の環境を守る意識を広げる取り組みを進めてまいります。

鈴木(株)石原健一

「県内優良施設見学研修会」参加報告

■ DATA ■

令和7年11月11日(火)

①静岡市西ケ谷清掃工場 ②静岡市沼上最終処分場

令和7年度の「県内優良施設見学研修会」は、会員・事務局12名が参加し、2施設の見学をさせていただきました。

■静岡市 西ケ谷清掃工場

1.施設概要

静岡市西ケ谷清掃工場のごみ処理方法は、家庭ごみを1700～1800℃もの高温の溶融炉で溶かす、ガス化溶融方式とのことです。ごみの溶融時に出る熱分解ガスが燃焼室で完全燃焼され、排ガスとして煙突から排出されるまでには、ろ過式集じん器、消石灰・活性炭供給装置など数々の公害防止設備が設置されているそうです。一方で、炉底部から排出される灰分・不燃分などの溶融物は水砕、分離後、溶融スラグ・メタルとなって再資源化されます。

2.環境への取り組み

ごみ溶融時はガスが発生しますが、その中に含まれるダイオキシン類は燃焼室で分解さ

れ、ダストや他の有害なガスはろ過と消石灰・活性炭の吹込により無害化して排出されるそうです。また、ごみの持つ熱量を蒸気エネルギーとして熱回収し、発電したり近接の温水プール、温泉施設に供給し活用しているとのことでした。

3.感想

想像よりはるかにクリーンで静かな印象でした。炉底部から溶融物を排出する「出湯」と



静岡市西ケ谷清掃工場

いう作業を見学できましたが、まるで製鉄工場のように真っ赤に溶けた溶融物が流れ出ていました。また、ガラス越しにごみピット内を見ることができましたが、ごみを運搬するクレーンは、一回5tものごみを掴めるそうで、スケールの大きさを感じました。

■静岡市 沼上最終処分場

1. 施設概要

1990年に完成した静岡市沼上最終処分場は、側溝汚泥、西ヶ谷清掃工場から出る飛灰、浄化センターの沈殿物などを主な対象物として、現在、4段中4段目まで埋め立てられていて、今のペースでは、あと3年で容量が一杯になるそうです。この解決策として、現在、現処分場の後背地に新処分場が建設中で、2026年8月の完成予定で13.2万㎡の埋立容量があり、向こう15年間もつとのことでした。

2. 環境への取り組み

埋立地からの浸出水は有害成分を含んでいる可能性があるため、底部に遮水シートを張って溜まった水をポンプアップし、浸出水処理施設で無害化してから放流しているそうです。また、飛灰には有害な重金属類が含まれているため、それらは固定化(キレート処理)され無害化しているそうです。

3. 感想

対象物の搬入後、覆土・転圧されるため一見すると造成中の山のように、ごみの最終処分場とは思えませんでした。新処分場が建設中とはいえ、現処

静岡市西ヶ谷清掃工場



分場が1990年の供用開始から40年足らずで一杯になってしまうとの説明を伺うと、市民一人ひとりが出すごみの量を大幅に減らす必要があると感じました。そのためには、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを自分事として実践することが重要だと思います。

おわりに

「県内優良施設見学研修会」開催にあたり、静岡市環境保全推進協会事務局ならびに施設見学を受入れていただいた静岡市様に感謝申し上げます。

普段、見ることのない清掃工場、最終処分場を見学できましたが、両施設とも非常に環境に配慮された施設でした。今後もこの研修会を通じて、多くの方に環境保全活動の意識向上に繋がれたらと思います。

三井住友建設(株) 明石耕一



静岡市沼上最終処分場



環境セミナー

Tuesday, February 17, 2026

静岡市における 生物多様性保全の取り組み

講師 中村洋之氏(静岡市環境局 環境共生課自然ふれあい係)

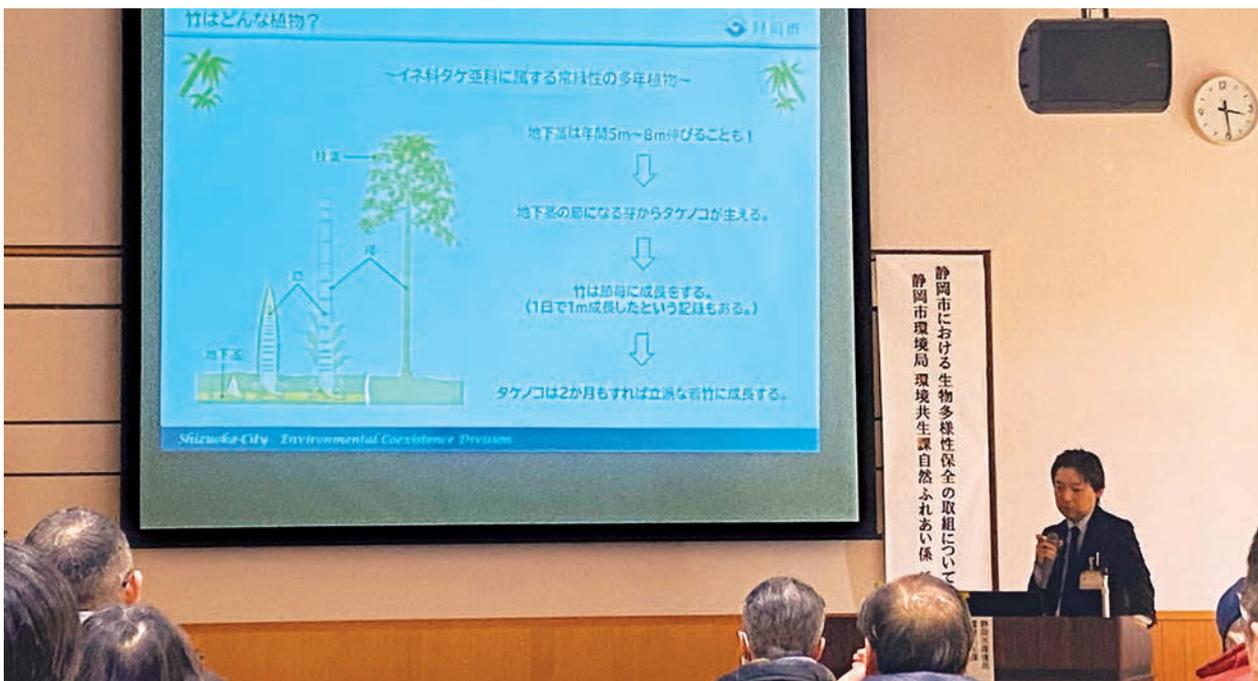


2月17日(火)、城東保健福祉エリアの保健福祉複合棟において静岡市環境局 環境共生課自然ふれあい係の中村洋之氏を講師に迎え、「環境セ

ミナー」が開催され31名が参加しました。

今回の講演を通して、静岡市が生物多様性の保全に向けて非常に幅広い取り組みを進めていることを知り、地域の自然環境を守ることの重要性を強く感じました。生物多様性を「自然を守るための活動」としてだけでなく、「市民の暮らしの質を高め、将来世代に持続可能な環境を引き継ぐための社会基盤」として位置づけ、環境政策を「生活の質」や「都市の魅力」と結びつけていくことは、これからの自治体運営において非常に重要だと思います。

講演では、静岡市が策定した生物多様性地域



戦略の概要が紹介され、里山・河川・海岸といった多様な自然環境ごとに課題があり、里山では放任竹林の増加による生態系の変化や保水作用の低下による土砂災害リスクの増加などの問題、河川では外来種の増加や水質の変化が生態系に影響を与え、海岸では漂着ごみや海洋プラスチックが生物に深刻な影響を及ぼしています。市民団体と協力して対策を行うことで、動植物が生息しやすい環境を取り戻しているという話があり、こうした地道な活動が、生態系の回復だけでなく、地域コミュニティの活性化にもつながっているという点が興味深かったです。

また、外来種対策について具体的な事例が紹介され、オオキンケイギクやアライグマなど、地域の生態系に深刻な影響を与える種への対応が急務であることを知り、行政だけでは対応しきれないため、市民の理解と協力が不可欠であり、「市民参加型のモニタリング調査」や「外来種の見分け方講座」、「駆除活動への参加プログラム」など、参加しやすい仕組みづくりが進められており、体験することでより環境保護への関心が高まるのではないかと感じます。

公園や街路樹、民有地の緑を守ることで環境を整え、生態系のつながりを保つという考え方は、都市化が進む現代において非常に重要であり、緑地は単に景観を良くするだけでなく、街のヒートアイランド現象の緩和や雨水の浸透促進による防災機能の向上、市民の健康や心理的な安定にも寄与するため、生物多様性保全が私たちの生活と密接に関わっていることを実感しました。講演全体を通して特に心に残ったのは、「生物多様性の保全は行政だけでは成し遂げられず、市民一人ひとりの意識と行動が不可欠である」というメッセージであり、自然観察会や環境教育プログラムなど、市民が気軽に参加できる取り組みが紹介され、静岡市が「市民とともに進める環境保全」を大切にしている姿勢が伝わってきました。

今回の講演を聞き、身近な自然にもっと目を向け、様々な環境保全活動に参加してみたいという気持ちが芽生えました。生物多様性を守ることは、美しい静岡市をより豊かで魅力的な街にするための大切な取り組みであり、その一端を担うことができればと思います。

日立グローバルライフソリューションズ(株) 住吉 明





令和7年度 環境保全功労者等表彰

地域環境美化功績者(団体)部門受賞

令和7年7月9日(水)

静岡市役所静岡庁舎
市長応接室及び環境局長室

この度、「令和7年度 地域環境美化功労者表彰 地域環境美化功績者(団体)」部門の表彰を賜りましたのでご報告します。

環境省では、毎年6月の環境月間に合わせて、環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関して顕著な功績があった者(個人及び団体)に対し、その功績をたたえるため、環境大臣による表彰を行っています。会設立から20年に渡る海岸等清掃活動、及び三保における松原の保全活動が評価され、受賞となりました。

令和7年7月9日、海野会長、阿部副会長、石井運営委員長、住吉運営副委員長にご出席いただき、静岡市役所静岡庁舎内で表彰伝達式が行われ、その後、難波市長に受賞をご報告しました。

今後も環境保全活動を継続し、静岡市の環境保全に貢献してまいりますので、会員事業所の皆様、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



令和7年度 公害防止管理者等リフレッシュ研修会

[開催日] 令和7年10月2日(木) [会場] 静岡県教育会館大会議室

1 静岡県くらし・環境部環境局生活環境課

「環境関連法令の改正動向と留意点」〈大気関係〉〈水質・土壌関係〉

2 事例紹介

- 富士市環境部環境保全課「大気汚染防止法、水質汚濁防止法の立入検査の状況について」
- 静岡市環境局環境保全課「騒音・悪臭に対する苦情の状況」

3 栗田工業(株)「排水処理技術の原理原則と最新技術のご紹介」



かんきょうにゅーす

Kankyo News

事務局からのお知らせ

通常総会の開催について

通常総会の開催日程をお知らせします。

1. 開催日 令和8年5月19日(火)
2. 会場 静岡市役所清水庁舎 ふれあいホール
(静岡市清水区旭町6-8 3階)
3. 時間 14時00分～ 理事会
14時30分～ 通常総会
15時10分～ 講演会

清水区三保クロマツ植樹地

下草刈り・松葉かき

令和7年10月18日(土) 参加事業所24社 参加人数138名



令和7年2月に松の苗木を植樹した場所も含めて作業を行い、草と松葉を回収しました。ご協力ありがとうございました。

【令和8年3月31日現在会員数】 119事業所

随時会員を募集しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

[発行] 静岡市環境保全推進協会 [ホームページURL] <https://www.shizuoka-kankyosuishin.jp>
[事務局] 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡庁舎 環境局環境保全課内(新館13階) TEL054-221-9373 FAX054-221-1186
[表紙写真] 静岡市立日本平動物園提供